

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例7

< 事例概要 >

（胃瘻造設）

・10 歳代、脳性麻痺、てんかんがある、在宅療養中の患者。意思疎通困難、側彎、四肢拘縮あり。BMI 10.4 kg/m²。血清アルブミン値不明。

・胃食道逆流症により経鼻胃管長期の管理が困難なため、他医療機関より胃瘻造設を依頼。術前にX線造影検査を実施。

・腹腔鏡下噴門形成術、腹腔鏡下胃瘻造設術で、バルーン型カテーテルを使用し、左季肋部に造設。

・術後 9 日目に発熱。術後 10 日目、栄養剤注入直後に顔面蒼白、血圧低下し、心肺停止。CT検査で腹水貯留と遊離ガスを認め、術後 11 日目に死亡。

・死因は、汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。